

## 令和元年度ライチョウ捕食者対策ワーキンググループ議事概要

開催日時：令和2年1月17日（金）13:30～16:50

開催場所：山梨県恩賜林記念館 特別会議室

（座長：石井 信夫 東京女子大学現代教養学部数理科学科教授）

### 議事次第

1. 開会
2. 議事
  - （1）南アルプスにおける捕食者対策について
  - （2）中央アルプスにおける捕食者対策について
  - （3）その他
3. 閉会

### 議事1 南アルプスにおける捕食者対策について

#### <3年間の捕食者対策事業の総括について>

- 事実と推測を分けて整理し、データの精査、生データの指標化などの整理、及び追加すべき調査事項の検討が必要である。ケージ保護等の技術によってライチョウが増加したことは素晴らしい成果だが、この方法を用いたから必然的にうまくいったということではなく、様々な取り組みを模索した中での成功例だったことを記した方がよい。

#### <令和2年度の捕食者対策計画（案）について>

- 昔から南アルプスにキツネとテンは生息しており、キツネのほうが高山帯まで来ていた。近年、テンが上がってくるようになり、ライチョウが減少した。2019年にテンの捕獲数が減ったのは個体が学習したことと、捕獲が難しいメスが住み着いているためと考える。テンの個体数が減少したからテンが捕獲されなくなったわけではない。
- これまでの南アルプスでの経緯を元に、事業におけるテンの管理目標を掲げると良い。高山の山小屋にテンが生息すること自体がおかしく、人間活動に依存したテンを高山帯から排除するという目標と、何頭捕獲という目標とは質が違う。
- 国立公園の利用者や登山客への啓発は必要である。捕食者対策という枠組みではないかもしれないが、登山客には山のゴミの問題など考えてほしい。
- 胃内容物調査はさらに注力すべきで、分析精度を上げることも可能と考える。証拠は少しずつ集まっているが、捕食者がライチョウを捕食しているかは調べる必要がある。
- 冬季に人間に依存しているテンを捕獲することは理由付けできる。特定の時期に筒わなを設置するのであれば、問題はないと考える。筒わなについてはストッパーを付けることで、オコジョが混獲される可能性を低減できる。
- 昔はテンが冬季に山小屋の食料を荒らすことがあった。山小屋での事情は異なるが、

食料を缶に入れて保存しているところは荒らされることは減った。冬季は寒さを避けるために今でもテンが入ってくることもある。

#### <捕獲個体の取り扱いについて>

- 近年の捕獲されるテンはショックに弱い若い個体が多い。また捕獲時に濡れることで衰弱しやすくなり、工夫は続けているものの捕獲時もしくは保管時に死亡する個体が多い原因になっている。

#### <肩ノ小屋以北の生息状況について>

- 肩ノ小屋以北にライチョウのなわぼりが広がらない。肩ノ小屋の北側は例年ヒナがすぐ見られなくなる場所でもあるので、捕食者の影響が考えられる。ただ、わなの見回りなど管理を考えると、山小屋から離れた場所にわなを設置することは難しい。捕獲が難しい場所に生息する個体及びトラップシャイの個体の扱いは、早期に検討すべきである。

### 議事2 中央アルプスにおける捕食者対策について

#### <令和2年度の捕食者対策計画（案）の目的・目標について>

- ライチョウを定着させるためにできる対策は打つという考えで、捕食者の中でも人間活動に依存している個体を捕獲する計画であれば、目的や位置づけに問題はないと考える。中央アルプスのライチョウ個体群を回復する計画の中で、ライチョウの定着へのリスクをできるだけ小さくするのであれば、捕食者対策の効果は未知数であるが、やらないよりはやった方がよいと考える。
- 人間活動に依存している個体から捕獲する計画であるが、場合によってはそれ以外の個体を捕獲する必要がある可能性もあることも考えた方がよい。捕食者の生息状況に関する情報が少ないことから、データが収集できるよう計画に組み込むと良い

#### <捕獲個体の放獣について>

- 高山帯で捕獲された個体を麓で放獣しデータを得る案があるが、元々いた場所に戻るという性質から捕獲地点の高山帯に戻る可能性は高く、その結果からテンが高山帯に上がったと結論づけることはできない。放獣した個体が高山に再び上がった場合、個体の再捕獲が困難となる可能性が高く、そのリスクを冒す必要性はないと考える。テンが下から高山帯に移動していることを示すのであれば、麓で多数の個体を捕獲、標識後に放獣する必要がある。
- 地元への丁寧な説明が必要。ライチョウ復活への思いが強い地域であり、今後地元との協力は必ず必要となる。

#### <センサーカメラを使用したモニタリングについて>

- 現在センサーカメラを4台設置しているが、モニタリング目的としては不足である。他の機関の調査も活用することを検討したほうが良い。

以上